



学校だより

令和4年5月31日

6月号

岩国市立岩国小学校



「自立と自律」

校長 清 寿光

5月28日（土）に実施しました体育発表会では、保護者やご家族の皆さまから温かいご声援をいただき、ありがとうございました。また、やり遂げた充実感で最高の笑顔を見せてくれた児童にも感謝します。今後も教育活動をとおして、成功体験を重ねることで自己肯定感を高め「じりつ」した子どもを育てていきたいと考えています。



「自立」と「自律」どちらも読みは「じりつ」です。辞書で引いてみると、「自立」とは、「他への従属から離れて独り立ちすること。他からの支配や助力を受けずに存在すること」と記されています。一方、「自律」とは、「他からの支配・制約などを受けずに、自分自身で立てた規範に従って行動すること」となっています。どちらも似たニュアンスを含んでいますが、「自立」は独り立ちすること。「自律」は自らを律してよき行いをする事。と言い換えるとその違いが見えてきます。学校では、この2つの「じりつ」を身につけさせることを目指しています。

まず、「自立」ですが、このことが顕著にでてくるのが1・2年生で学ぶ「生活科」です。生活科の目標に「具体的な活動や体験をとおして、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指す」とあります。また、この「自立」は次のように3つに分けてバランスよく身につけていく必要があるとも述べています。その3つの自立とは、①学習上の自立、②生活上の自立、③精神的な自立です。①「学習上の自立」は、自分から学ぶことであり、自分の思いや考えを適切な方法で表現できることです。②「生活上の自立」は、生活上必要な習慣や技能を身につけ、人や社会、自然と適切に関わり自分の生活をより良くしていくことです。③「精神的な自立」は、自分の良さや可能性に気づき、意欲や自信をもって前向きに生活できることです。

また、「自律」については、道徳や学校の全ての時間を有効に使って、社会生活に適應できる児童を育てます。やってはいけないことが分かるだけでなく、実際の場面でその知識を使える子どもたちを育てていきます。善悪の判断、良否の区別、時には我慢することの大切さ等、集団生活の中でしか経験できないことを身につけさせていくことも、学校の大きな役目であると感じています。



教室や廊下、職員室など、校内のいたるところに、左のような「心のクローバー」を掲示しています。そこに示している「あきらめない心」「正しい心」「広い心」の3つの心は、道徳教育の研究を進める中で、本校のめざす児童像を踏まえ、全教職員で考えたものです。

先日の体育発表会の振り返りでは、最後まで一生懸命演技・競技する姿から「あきらめない心」が、ルールを守ってよい態度で参加する姿から「正しい心」が、勝ち負けにこだわらず、みんなで力を合わせ競技・演技する姿から「広い心」が大きくなったと、お互いの成長を喜び合いました。

学校における道徳教育は、道徳科の授業はもとより、各教科や学校行事など、あらゆる教育活動を通じて行います。子どもたちも教職員も、3つの心を常に意識して生活し、心のクローバーを大きく育てていきたいと思えます。学校で学習したことが家庭や地域での実践の場でも生かされるよう、見守ってください。